

海外農林業情報 No. 107

目次

【世界の食料需給】

米国農務省による世界の農産物需給見通し	1
アフリカ東部でのバッタによる被害	2

【世界の食料需給】米国農務省による世界の農産物需給見通し

米国農務省（USDA）は2月11日、2019/20年度の10回目の世界の穀物・大豆の需給見通しを発表しました。品目別の見通しは次の通りとなっています。

小麦

世界の生産量は、前月よりわずかに下方修正されたものの、EU、ウクライナ等の増産により7億6,395万トンと、前年度を上回る（対前年度比4.4%増）見通しとなりました。世界の消費量は前年度より増加する見通しですが、生産量が消費量を上回る結果、期末在庫量は、前月よりわずかに下方修正されたものの前年度より増加し、2億8,803万トン（対前年度比3.5%増）と史上最高となる見通しです。また、輸出は、EU、カザフスタン、米国等が増加し、輸入は、中国およびトルコが増加する見通しです。

トウモロコシ

世界の生産量は、南アフリカ、モルドバおよびウクライナで前月より上方修正されたものの、前年度を下回る11億1,159万トン（対前年度比1.0%減）と見通されます。消費量も、前年度より減少する見通しで、世界の生産量が消費量を下回り、期末在庫量は2億9,684万トンと前月より下方修正し、対前年度で減少する（対前年度比7.4%減）見通しです。

コメ

世界の生産量は、4億9,622万トン（精米）と前年度を下回る（対前年度比0.6%減）見通しとなりましたが、消費量を上回っており、期末在庫量は1億7,809万トン（精米）と、前年度より増加する（対前年度比1.8%増）見通しです。

大豆

世界の生産量は、ブラジルで主産地のマト Grosso 州が天候に恵まれたこと等により前月より上方修正され増加する見通しですが、世界全体では前年度より減少し、3億3,940万

トン（対前年度比 5.4%減）となる見通しです。世界の生産量が消費量を下回るため、期末在庫量は前年度より減少し 9,886 万トン（対前年度比 11.1%減）となる見通しです。

また、輸入は、中国が搾油需要の高まりから増加する見通しで、輸出は米国、ブラジル、およびウクライナが増加する見通しとなっています。

以上が 2 月 11 日の米国農務省による世界の農産物需給見通しの概要です。ところで、上記の大豆の見通しで、米国の輸出については、前月予想より 140 万トン増の 4,967 万トンと見通しています。昨年 12 月 13 日、米中貿易協議が「第 1 段階」の合意に達し、米国側説明によれば中国が米国から農産物などの大量購入を目指していたことから、このことがどのように反映されるか注目されていたところ、上記のような内容となりました。ただ、中国での新型肺炎の影響は触れられておらず、トウモロコシを含めた飼料穀物に対する中国の需要に今後どのように影響してくるのか注視していく必要があります。

<参考リンク>

World Agricultural Supply and Demand Estimates (USDA)

<https://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/index.htm>

海外食料需給インフォメーション（農林水産省）

<https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/index.html>

2 月の米産大豆 輸出見通し上げ（日本経済新聞、2/18 付）

<https://www.nikkei.com/article/DGKKZO55514620S0A210C2QM8000/>

（文責：藤岡 典夫）

【世界の食料需給】アフリカ東部でのバッタによる被害

アフリカ東部の「アフリカの角（つの）」と呼ばれる地域で、サバクトビバッタ（Desert Locust）が大発生し、農作物に大きな被害が生じています。1 月 30 日、FAO（国連食糧農業機関）の屈冬玉（QU Dongyu）事務局長は、人道危機を引き起こす恐れがあるとして、生活と食料安全保障を守るための緊急援助を訴えました。バッタの被害としては、ケニアでは過去 70 年間で、エチオピアとソマリアでは過去 25 年間で最悪の事態となっているほか、ジブチとエリトリアでも現在被害が広がりつつあります。FAO は、この 5 カ国のほか、南スーダンとウガンダにも被害が広がることを懸念しています。

サバクトビバッタは世界で最も破壊的な移動性害虫と考えられており、1 km²をカバーする小さな群れが、3 万 5,000 人分の量の食物を 1 日で食べるといわれています。FAO は、エチオピア、ケニアおよびソマリアでは、すでに牧草地や農地の被害により、約 1,200 万人が深刻な食料不安に直面しているとしています。ケニアでは、長さ 60km、幅 40km の大きな群れが 1 ヶ月足らずで国の北部の郡と一部の中央地域に侵入し、作物や家畜に大きな

被害をもたらしました。FAO のサバクトビバッタ情報サービスによれば、次の世代のバッタが2月に孵化する見込みで、4月上旬には次の植栽に合わせて新しい群れが生まれ、状況はさらに悪化すると予想しています。

<参考リンク>

FAO appeals for urgent support to fight worsening Desert Locust upsurge in the Horn of Africa

<http://www.fao.org/news/story/en/item/1259082/icode/>

UN releases USD10 million in rapid support for Desert Locust campaign in East Africa Funds will enable expanded control operations against voracious crop

<http://www.fao.org/africa/news/detail-news/en/c/1258510/>

(文責：藤岡 典夫)

本情報のメール配信をご希望の方は、件名に『海外農林業情報配信希望』と記入した空（から）メールを下記までお送り下さい。ご意見、ご感想もお待ちしております。 E-mail アドレス：deskb@jaicaf.or.jp
メールを送付された方には、確認メールをお送りします。送信後2週間以内に届かない場合は、お手数ですが03-5772-7880（担当：森・西野）までお電話下さいますようお願い申し上げます。なお、メール配信をご希望の方には、本ミニ情報のほか、セミナーのご案内等、当協会からのお知らせが届くことがありますので、併せてご了承下さい。

発行：(公社) 国際農林業協働協会 (JAICAF)

〒107-0052 東京都港区赤坂8丁目10-39 赤坂KSAビル3階